

手賀沼通信(第313号)

Eメール: nittay@jcom.home.ne.jp
http://jfn.josuikai.net/semi/koyukai

http://ynitta.cocolog-nifty.com/blog/
http://tegatu2.web.fc2.com

新田良昭

今月は過去に書いた手賀沼通信の再掲載とさせていただきます。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

中国には1999年7月、2002年5月、2011年9月と3回観光旅行で行きました。その1回目の旅行記です。

現在の中国は世界第2の経済大国となり、アメリカと並ぶ世界での2大強国となって、その動向が各国に大きな影響を与えています。

最初に行ったときは、まだ発展途上国そのものという印象を受けました。ところがその後行くたびに都市や社会環境が整備されて発展していくのが感じられました。

25年前の中国を感じていただきたいと思いません。

手賀沼通信第20号(1999年11月)に載せた中国旅行記

今月のテーマは海外旅行です。いただいたお葉書に「いつも求道的で真面目な話ばかり」とありましたが、今月は気軽にお読みいただけるのではないかと思います。

1999年7月に中国に行ってきました。私にとっては3年ぶりの海外旅行、中国は初めてです。

今まで国内海外とも、観光旅行は、社内旅行や親しい仲間との短い旅行を除くとほとんど家内と一緒にでした。今回は家内は都合で家を空けるわけにはいかないため、多少の寂しさと後ろめたさを感じながら一人でバックツアーに参加しました。一人での参加は、素晴らしい景色や美味しい食べ物に出会ったとき、一緒にその喜びを分かち合える人のいない寂しさがあります。一方では同行者の体調や気分を気にする必要がないため、クイックデザイン、クイックアクションが可能です。どちらもそれぞれ良さがあるなど感じました。

いずれも短い日程で観光地を駆け抜ける慌ただ

しさでしたが、印象深い旅となりました。写真を入れると格好がつくのですが、ファイルが大きくなり電子メールの方にご迷惑がかかります。あきらめましょう。

なお原稿がつい長くなったため今月もA4となりました。

中国の街角

7月12日から17日まで北京、西安、上海を訪れました。H.I.S主催の格安ツアーで、5泊6日、添乗員同行、オール食事付き、オプションツアーなしで9万8千円、一人部屋特別料金は3万円です。北京、西安は各2泊、上海1泊の日程で、参加者は男性4名、女性17名でした。

一人での参加は出掛ける前ちょっぴり不安がありました。ところがお酒の好きな国富さんや若くてしっかりした女性添乗員の山崎さんや北京大学を出たばかりになる中国のガイド張さんと意気投合して、西安の夜店をひやかしたり、私の部屋で遅くまで酒盛りをしたり、ガイドがタクシーを飛ばして買ってきた上海蟹をホテルの近くのレストランで料理してもらって食べたりで、今までのツアーと違った経験をする事が出来ました。

手賀沼通信の読者には中国に何度も足を運んだ中国通の方が大勢おられるので、ちょっと恥ずかしい感じですが、わずか5泊6日の駆け足旅行で感じたことをいくつか書いてみたいと思います。もし見当違いのことがあったらお許しください。

1. 人と自転車と車の共存する道路—13億人のエネルギー

中国の道路を向こう側に渡るのは命懸けです。横断歩道はありません。信号はまれにしかなく、あっても作動していないことがあり、動いていても無視する人がいます。道路には車と自転車と人があふれています。まるでどこかから湧いて出たようです。30年前に韓国に初めて行ったときの記

憶と似ていました。

車はフルスピードで飛ばします。中央の仕切り線のない道路では対向車が真っ直ぐ突っ込んで来る感じであわやというときに小さい車の方がゆずります。タクシーに乗った人の話では、心臓が止まるかと思った、乗っている間中早く着いてくれと祈っていたとのことでした。

普通のバスのほかにトロリーバスや2階建てバスがあり、窓をあけて走っている冷房のないバスも多くどれも混んでいます。バス停で待っている人は並ぶことをしません。始発のバス停ではバスがまだ停留所に止まっていないのに我先に乗ろうとして大混乱でした。

自転車は専用道路がある広い道では専用道路を走っていますが、そうでない所では車道を走っています。車にすれすれの所を平気で通ります。バスのドライバーは自転車のほうが威張っていると言っていました。日本のように自転車が歩道を走っているのはあまり見かけませんでした。歩道は人が多すぎて走れないのでしょうか。

そしてどこへ行っても感じるのは人の多さです。総面積44万平方メートルの広大な天安門広場には毛主席記念堂に入るための人の列が延々と続いていました。1日に30万人以上の人が入場するそうです。私は明の十三陵であまりの混雑に一行とはぐれてしまい大変な思いをしました。万里の長城では仲間の1人が迷ってしまいました。人の多さは道路も同じです。車と自転車と人が交錯していますが、思ったほど事故は多くないようです。

上海では高層アパートが林立し、人々は折り重なって住んでいるのではないかという感じを持ちました。

いたるところで13億人のエネルギーを感じさせられた6日間でした。

2. 老人が目立つ中国—太極拳とウォーキングや犬の散歩の違い

いつもの習慣で5時前に目が覚めるため、雨だった上海の朝を除いて毎朝散歩をしました。北京ではホテル五洲大酒店の周りの公園を、西安ではホテル西安賓館から小雁塔まで約30～40分を朝のさわやかな空気を楽しみながら歩きました。6時頃にはもう街は動き始めています。日本より早起きのようです。道路掃除のおばさんは昔の日本の2倍くらい長い竹帚で歩道を掃いています。

自転車修理のおじさんは歩道にシートを敷き修理道具をならべて開店の準備をしていました。観光バスからは気がつかない街の姿です。

2つの街で興味を引いたのは、中高齢者が早朝から集まって太極拳を楽しんでいることでした。西安の小雁塔は唐の長安時代の建造物でその周りは緑豊かな公園になっています。そこでは幾つもの太極拳グループが思い思いのパフォーマンスを演じていました。一人だけで演じる人から女性だけのグループや二十人以上のグループも見られました。若い人はあまりいませんでした。

日本では早朝は、ウォーキングやジョギングをしている人、犬をつれて散歩している人を多く見かけます。中国ではジョギングをしている人はかなり見かけましたが、ウォーキングは少なかったように思います。そして4日間で犬の散歩を見かけたのは1回だけでした。西安のホテルは近くに住宅もかなりあったので犬がいれば散歩しているはずですが、犬を見かけないのは食べてしまうためなのかなどと馬鹿なことを考えたりしました。

街角では何もしないでたたずんでいる中高齢者の姿を多く見かけます。ガイドの張さんの話では中国は定年やリストラの年齢が若く、その分街に中高齢者の姿が多いのだそうですが、なんだか10年後の日本の姿を見るような気がしました。ミニスカートの女性はいませんが、茶髪や上げ底靴の若者はいません。少子化の日本で若者が目立ち、1人っ子政策の中国で若者の姿が目立たないのは、日本の若者のほうがわがままなのかもしれません。

3. 笑顔のないサービス業—半分は値切ってもまだ高い

ツアーで行くと観光の合間におみやげ屋に立ち寄ります。特に中国は観光地のトイレがあまり清潔でなく、トイレ休憩のためにもみやげもの屋によることとなります。私の場合は一人での参加で買い物は苦手なため、家内に出発前にお土産は買わないよと宣言して出てきました。ところが1日に何度もおみやげ屋に立ち寄り、つい手持ち無沙汰に日本語の出来る店員と話している内、がらくたをいくつか買うハメになってしまいました。

みやげ物店は値段がついていますが、値切るのが当たり前なのでかなり吹っかけた値段となっています。ところが半分に値切ってもまけるとなるといったいいくらで買ったなら安いのか、分からな

なくなってしまう。最初は3割も値引きをされると得をしたように思いましたが、だんだん疑心暗鬼になってきました。たいした物は買わなかったのですが、おそらく結構高い買い物をして、店員がほくそ笑んでいたのではないかと思います。西安のスーパーで13元（195円）で紹興酒を買いましたが、翌日みやげ物店では35元（525円）の正札がついていました。約2.7倍です。

ところで中国では笑顔をあまり見かけませんでした。中国人の文化なのか共産主義時代の遺産なのかは知りませんが、みやげもの屋をはじめとしてホテルでもあまり笑顔にはお目にかかりません。サービス業なら競争に勝ちぬくために笑顔を見せた方がいいと思うのですが、笑顔を見せるのはなにかマイナスになることがあるのでしょうか。

そう言えば昔仕事でやりあった香港のキャリアウーマンも笑顔を見せることはなかったと記憶しています。中国人の文化なのでしょうか。

4. 日本の都市との比較—北京と東京、西安と京都、上海と大阪

日本の都市と中国の都市では、北京は東京に、西安は京都に、上海は大阪に似ています。姉妹都市になっている所もあると聞きました。

北京は人口13億の国の首都だけあって風格があります。元の大都の時代から明、清の首都であった歴史を感じさせます。地下鉄ですが山の手線のような環状線もあります。整然とした町づくりで、スケールが大きいという印象を受けました。都市の広さ、道の広さ、公園の広さなど東京以上かもしれません。空港はお粗末でしたが、新しい空港を建設中とのこと。また、街が予想以上に清潔でした。裏町は知りませんが、市内の観光地でもビンやカンのポイ捨てはあまり見られなかったように思います。

西安は言うまでもなく唐の時代の長安です。それ以前に秦、漢、隋の首都でもありました。長安の時代はいろいろな国から様々な人種が集まった世界のグローバル都市でした。今その面影はあまりありません。城壁は残っていますが、唐代の遺跡は大雁塔、小雁塔くらいで、京都のほうがよほど歴史を感じさせます。空海はよくこんな遠くまで来たなという感じを受けました。しかし秦の始皇帝の兵馬俑坑はすばらしく、中国の偉大さに恐れ入りました。

上海はいかにも新しい町といった感じを受けます。歴史的に見てもあまり古いものはありません。上海租界時代の建物が残っている外灘も中国4千年の歴史から見ればついこの間の建物です。商業都市で、あまり緑がなく、騒々しい感じは大阪そっくりです。しかし北京にない新しさがあります。エネルギッシュな抜け目の無さがあります。レストランの大ビンのビールも北京では6元（90円）とか10元（150円）でしたが、上海では15元（225円）でした。（それでも中ビン500円の日本よりはるかに安い。また飲み物の値段は東京より大阪のほうが安いので、ここは日本と違います。）

それぞれ性格の違う3つの都市を急ぎ足で見た感じは、中国をもっともっと見てみたいということです。私もすこし中国のとりこになったのかも知れません。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

60代になってウォーキングを楽しむようになりました。

いろいろな形でウォーキングを楽しみましたが、一度だけ夜中に歩いたことがあります。その体験談です。

手賀沼通信第43号（2001年10月）に載せたウォーキング体験記

オールナイトウォーク

2001年8月25日の23時20分から翌朝の5時20分にかけてオールナイトウォークに挑戦いたしました。我孫子市レクリエーションクラブ主催で、コースは千葉県鎌ヶ谷市の新鎌ヶ谷駅から我孫子市の中央公民館までの約22キロ、休憩時間も入れて6時間の道のりです。私は今年初めての参加でした。

新鎌ヶ谷駅に集まったのは、小学生から70歳台までの52名、予想以上の人数でした。ほとんどは仲間や家族のグループでの参加、私のように一人での参加者はごく少数でした。世話役の人から発光する腕輪とスニーカーに貼りつける反射テープを受け取り、「車にはくれぐれも気をつけるよう」、「あまり無理をしないように」、「体調を崩し

たときは遠慮せず申し出るように」との注意事項を聞いて予定より10分早く出発しました。時々懐中電灯をつけながら歩きました。レクリエーションクラブのメンバーが先導と最後尾につき、要所要所に散らばって一行が離れ離れにならないよう気を配っていました。途中で歩けなくなった人を拾っていくためと、お弁当を運ぶための車が2台、後になり先になり伴走してくれました。

コースは船取県道船橋我孫子線に沿って、車を避けるため出来るだけ裏道を通り、途中から県道にもどって狭い歩道を行います。途中から県道を離れて沼南町の大津ヶ丘団地に入り、手賀沼の西端の柏ふるさと公園で時間をかけて深夜のお弁当を食べた後、手賀沼沿いの遊歩道と沼畔の堤の上を歩いて県道沿いの沼南町の「道の駅」に出、手賀沼大橋をわたって我孫子市の公民館につくというこれ以上ない遠回りの道のりでした。まっすぐ行くと行程が短すぎて目的地に深夜についてしまいます。主催者が苦心して考えたコースでした。

半月の月があるはずでしたが、曇り空のためか最後まで月と星は見ることはありませんでした。

裏道はあまり街灯がありません。大きな木が茂っているところや人家のないところは大勢で歩いていればなんともありませんが、一人ならおそらく気味悪いことでしょう。人家の近くを歩くと犬が大声でほえます。深夜の大勢の足音と人声に驚くのでしょうか。しばらく海上自衛隊下総航空基地沿いの道を取りましたが、寂しい道であり楽しい道ではありませんでした。

船橋我孫子線はほかに幹線道路がないため国道並の交通量があります。歩道が狭く、深夜驀進する大型車の排気ガスをまともに浴びます。騒音も激しく、暴走族がバイクを連ねて走ってくると恐怖感さえ覚えました。四国八十八ヶ所を歩いて回った友人も、一番きつかったのは険しい山道ではなく国道のトンネルだと言っていました。よくわかります。空がひらけていても怖いのですから、閉ざされたトンネルの中で、体すれすれに大型車の排気ガスと騒音を浴びたら、死ぬ思いをするのではないのでしょうか。

深夜のコンビニはいわば砂漠ならぬ街道のオアシスです。汗びっしょりでのどをからからにして歩いているところにセブンイレブンの明るい看板が見えたときは正直ほっとしました。私達は最初の本格的な休憩を県道沿いのセブンイレブンの駐

車場でとりました。早速冷たい飲み物とお握りを買っておなかにつめこみました。生きかえった感じがしました。

県道を離れて団地の中に入りましたが、団地の中の道は快適でした。歩道が広く街灯が整備されており、排気ガスと騒音もありません。足取りも軽くなりついピッチが上がります。団地を抜けると手賀沼までは田んぼの中を行きます。真っ暗な中を黙々と歩きました。突然行く手の田んぼの中に車が突っ込んでいてそばに若い男女が呆然と立っているのが目に入りました。暗いので道を見誤ったようです。声をかけたらJASの到着を待っているとのことでした。はるか遠くに国道16号を車が疾走しているのが見えました。県道沿いを歩いているときは早く静かな道を歩きたいと望みましたが、闇の中に入ると灯りが心強く感じられました。

足が痛くなり始めた頃柏ふるさと公園につきました。そこで世話役の方が車で運んでくださったおにぎりが配られました。ゆっくり休んで元気を取り戻しました。ここまで来ると時々ウォーキングで来るなじみのある場所です。あと30分か40分でゴールです。でもまだ夜明けまでには大分時間があります。早く着きすぎるのではないかと心配しましたが、その心配は無用でした。

参加者全員で闇の中の写真を撮ったあと手賀沼遊歩道をゴールと反対のほうに歩き始めました。手賀沼をグルッと回って3倍くらいの時間をかけるのです。これなら明るくなったあとゴールに着くことになります。私にとっては歩きなれた道、手賀沼の湖面を見ながら、車の心配をしないでのんびり歩く快適な遊歩道です。水の汚れワースト日本一を20年以上続けている手賀沼も夜は光を反射してきれいに見えます。遊歩道にそって北千葉導水路の工事に作られた立派な道路が走っていますが通る車はありません。

沼南町の「道の駅」が見えてくる頃になって空が明るくなってきました。やっとナイトウォークの終わりが近づいてきたのを感じました。道の駅で小休止をとったあと、今年全部が完成したばかりの手賀沼大橋を渡って我孫子市中央公園につきました。

全員伴走車に拾われることなく、無事に予定の朝5時30分までに到着して、心づくしの味噌汁をいただいて解散となりました。